

第3回議員定数検討会 議事概要

令和5年6月15日 午前10時30分～午前11時45分

16名全員出席

1. 熊谷座長より

- (1) 「岐阜新聞記事の説明」
 - ・議員定数の県下での議員一人当たり人口の状況
- (2) 令和2年に議員定数の検討をしているが、改めて考えたい
- (3) 今年度の議会報告会では定数検討をテーマに広聴会をおこなう
 - ・8/21(月)経済界との広聴会(商工会議所)
 - ・8/26(土)若い世代との広聴会(小中学校 PTA、消防団)
 - ・9/29(金)全市民対象議会報告会(自治会・まちづくりなど)

テーマは、議会へ望むこと、議会への意見などの他、議員定数についても意見をいただく。

→この他、テーマについて意見・提案があれば座長までいただきたい。

2. 議員定数について

議員定数について、前回の意見を踏まえ、様々な資料を参考にしてどのように考えるか。

【主な意見】

- ・今回のように、手を挙げれば誰でも議員になれるというの(無投票)は良くない。
- ・無投票は、議会だけの責任ではない。
- ・定数は一度減らしてしまうと、元に戻すことはできないという事も考慮すべき。
- ・選挙は4年後であり、早急に定数を決定する必要があるのかという意見もあるが、新しく議員に手を挙げようとしてくれる市民の準備期間を考慮する必要がある。出来るだけ早急に結論を出すべき。
- ・本市議会では、令和2年度にも議員定数について検討した。当時は、一旦は現状維持との結論に至ったが、状況が変わってきた。今は、削減の方向で議論すべき。
- ・議員1人当たりの人口や地域性、財政面、市民感情など、様々な視点から本市の現状を考慮し議員定数を導き出すべき。
- ・本市では、他の市町村と比較しても人口は減っている。2～4人の削減と考える。
- ・先進地と言われる会津若松市議会では、委員会は7～8人は必要とのことから、2人削減が限界。
- ・京都市議会では、委員会は6～7人であり、本市に置き換えると4人減でも可能。
- ・他市との比較で、議員1人当たりの人口の県内平均は、3,669人である。これを本市に当てはめると議員定数は10人程度となる。全国的な状況を本市に当てはめると、定数は13人で良い。
- ・議員定数を削減しても、次の選挙が無投票にならない保証はない。議員定数を削減すれば、議員のなり手は増えるのか。議員の質は上がるのか。そういう議論が必要。
- ・議員は市民の期待に応えるため、しっかり仕事をする必要がある。議員活動に打ち込んでもらうためにも、また、若い市民に議員を目指してもらうためにも、議員報酬を上げるべき。委員会は、全議員が構成員となればよい。少数精鋭という事もある。

- ・報酬は、第三者機関である報酬審議会で議論されるべきもの。ここで議論すべきことではない。
- ・今の報酬では、議員のなり手がなくなる。
- ・そもそも議会は、執行機関の監視機能が求められる大切な機関。住民の意見の反映や、議会の審議機関としての機能について議論し、議員定数を決定する。その後、どのように議員の質を高めていくのか、住民の意思を反映させるための取り組みをどうするかなどを議論すべき。単なる議員定数の削減だけで終わるものではない。
- ・市民が議会に関心を持ってくれるような取り組みを検討することも必要。

次回は、6月議会明けに開催することとし、閉会日6月29日の議会運営委員会後は開催しない。
8月の商工会議所、若い世代との議会広聴会については、詳細が決まり次第連絡する。